

【港南区】令和3年第1回区づくり推進横浜市会議員会議
議事録

開催日時	令和3年2月5日（金） 午前9時30分～午前10時55分
場 所	港南区役所6階 603会議室
出席者	<p>【座長】 安西英俊議員</p> <p>【議員：4名】 瀬之間康浩議員、田野井一雄議員、みわ智恵美議員、梶尾明議員</p> <p>【港南区：31名】 今富雄一郎区長、齋藤紀子副区長 馬淵勝宏福祉保健センター長、 水野圭一郎福祉保健センター担当部長、 井深清港南土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	1 令和3年度個性ある区づくり推進費（案）について (繁野総務課長説明)
発 言 の 要 旨	<p>梶尾議員：緊急事態宣言下でのコロナへの対応に尽力いただき、感謝と敬意を表したいと思います。今後もワクチン接種等々、対応が迫られていくと思うが、区民の方のために職員も健康面に留意して取り組んで欲しい。さて、新型コロナウイルス感染症対策としての避難所における備蓄について、およそ何日分想定しているのか。</p> <p>繁野総務課長：予算の範囲内でできるだけ多くの数量を配分したいと考えています。</p> <p>梶尾議員：しっかりと準備進めて欲しい。災害時も地域で見守り推進事業に、各地域の取組を支援とあるが、具体的にはどのようなことをするのか。</p> <p>森山福祉保健課長：令和2年度はコロナ禍で地域の防災訓練が低調ということがありました。しかし昨年度は、障害者が一緒に避難所に避難する訓練など、かなり積極的に取り組んでいただいております。ありがとうございます。令和3年度につきましても、引き続き、災害時要援護者名簿作成支援などを行ってまいります。</p> <p>梶尾議員：引き続き、しっかりと進めてもらいたい。続いて、港南ひまわりプラン認知度向上のための広報について、スケジュールや広報物の配架方法などはどのように考えているか。</p> <p>森山福祉保健課長：具体的には検討中ですが、広く認知していただけるよ</p>

う積極的にアピールしてまいります。

梶尾議員：コロナ禍で、家族の方を含めお困りの方が多いと聞く。認知度の向上は重要だと思うので、しっかりと取り組んでもらいたい。続いて、地域貢献事業者PRについてだが、コロナ禍における事業者の状況はどうか。

大木地域振興課長：工業会や区商店街連合会に伺っていますと、飲食店のみならず、打撃が出ていると伺っています。

梶尾議員：地元で貢献されてきた事業者の皆さんは、事業の継続が困難であるとか、かなり経営状況が厳しいとおっしゃる方が多い。すぐにどうということはないと思うが、少しでも寄り添った支援ができるようにしてほしい。続いて、障害者施設における自主製品の販売支援について、販売促進のための広報活動支援とは具体的にはどのような内容か。

大島高齢・障害支援課長：例えば警察署など、区役所周辺施設への販売日程の周知や、広報よこはまの活用、状況にもよりますが、自治会町内会へのPRなども拡大して行いたいと考えています。

梶尾議員：以前も相談させてもらったが、障害者施設の皆さんは、なかなか販売機会が設けられない中、作ったものがストックされてしまうような状態を少しでも改善できるような方法がないか、引き続き進めてほしい。続いて、まちの魅力発信について、ふるさと港南のまち自慢ガイドブックが港南区デジタル観光マップになったということで、私も公開されてすぐに楽しんでいるが、ピアッザとも連携して、おうち時間も港南区内を楽しめるコンテンツが増えているのは良いことだと思う。今後もSNSを含む広報を活用しながら、コロナが収束したときにも、多くの皆さんに区内を楽しんでもらえるような状況を作っていってほしい。

みわ議員：一年以上に渡り、コロナ感染症対策に取り組んでいただきありがとうございます。まだまだ続くという中で、少しでも現場が働きやすくなるよう、我々も努力していきたいと思っている。国会において、感染症法とコロナ対策特別措置法が改正され、保健所が対応の最前線だと思うが、感染症に対する現場での原則がどうなっているか、伺いたい。

森山福祉保健課長：感染症を防止するその一点で、濃厚接触者等の積極的疫学調査を行って、少しでも感染を防ぐことが使命だと思ってい

ます。

みわ議員：感染されている方を見つけて、保護して、今は保健所が困難な状況になっていて、濃厚接触者を追うといったことが厳しい状況と聞いている。感染された方は保護されて守られるべきだと思うが、法改正により、罰則が付くということになれば、保健所が対応することになると思うが、この点について現場でどのように受け止めているか伺いたい。

森山福祉保健課長：まだ県から具体的な通知が来ていないため、手探りの状況です。

みわ議員：法改正されたばかりでこれからという所だと思うが、感染された方が病院から逃げ出したり、自身の感染についてきちんと語らないといったことについて、地域から声が上がって、県知事会などでから国に要望が出されたようだが、港南区の保健所の現場から、そういう困った事例を挙げたことはあるのか。

森山福祉保健課長：幸い、病院から逃げた、外出してしまったという事例は聞いておりません。ただ、強いて言えば、病院に行ってみたら陽性で、ご自宅にお帰りいただくのにどうすればいいか、ということで、市役所と協議した事例はありましたが、悪質な事例は聞いておりません。

みわ議員：これから心配しているのは、法施行にあたっては、区役所が最前線になり、本当に大変だろうと思っているので、現場の負担が増えることのないようにと改めて思う。また、ワクチン接種について、区福祉保健センターとして、どのように準備しているのか、伺いたい。

繁野総務課長：今のところ、健康福祉局から、4月以降に65歳以上の高齢者、基礎疾患のある方、高齢者施設等の従事者への接種を始めるということで、現在、局と区で、接種会場について調整を行っている段階です。

みわ議員：港南区医師会との話し合い等はどうなっているか。

繁野総務課長：区で直接医師会との調整はしておらず、今後、局が医師会と調整すると聞いています。

みわ議員：円滑に接種が受けられるよう、準備して欲しい。続いて、避難場所へのプラスチック製間仕切りの追加配備について、これまで配備された数と追加される数について伺いたい。

繁野総務課長：これまでに、13 か所ある風水害の避難場所に、それぞれ10 個ずつ配備しています。これを、令和3年度には更に倍増させる計画で、予定しています。

みわ議員：感染拡大防止にも、エコノミー症候群の問題でも大切なことなので、お願いします。続いて、港南区ひまわりプランの中で、ボランティアや民生委員の方など様々な人たちが、つながりの輪を作ったということだが、コロナ禍において、対面での活動や訪問などが難しくなっているが、そのことについての取組や、そういった方々の相談会などはどのようにしているか伺いたい。

森山福祉保健課長：民生委員さんもかなり苦慮されていて、どのようにやっていこうか議論されており、対面でできない部分は電話するなどしてもらっているが、対面よりも時間がかかってしまうといったことなどが聞かれます。集まれないことについての対策に特化した会議は開いておりませんが、民生委員や保健活動推進員の会議で議論していただいております。また、赤い羽根募金については、発声しないよう録音を流すなどの工夫をして実施し、前年よりも多く寄付が集まったという成果が出ており、感謝しております。

みわ議員：大変な中で頑張っていただいているので、区でもより支えていただきたいと思う。続いて、地域カステップアップ事業について、必要な情報を提供とあるが、新たなパンフレットの作成や、Web上に案内を掲載したりするのか。

大木地域振興課長：新たなコンテンツをご用意するということではありませんが、ホームページ上に丁寧な情報を掲載したり、区役所のホームページ上に区連会のホームページへのリンクを貼り見やすくするなど、環境を整えたいと考えています。

みわ議員：リンクされたことは良かったと思う。続いて、がん対策について、横浜市としてもがん検診を勧めていこうと取り組んでいるが、コロナ禍における状況はどうなっているか。

森山福祉保健課長：インターネットを利用した周知や、予約時に接触を避ける取組など、様々な工夫をしながら、実施しています。

みわ議員：様々な方法で広く周知するなど、更に推進していった欲しいと思う。最後に、手すりの設置、カラー舗装、ガードレールの設置について、令和3年度に予定している具体的な場所の資料が欲し

い。

麻生土木事務所副所長：通学路カラー舗装化事業と交通安全施設等補修事業は、今後地域こども安全協議会にて場所を決定するため、手すりの設置の予定のみ、後程資料をご用意させていただきます。

安西議員：要求の資料については、議員全員に配付するようお願いいたします。

瀬之間議員：日頃コロナ対応にあたり、区の皆様のご尽力に感謝します。

初めに、横浜刑務所で 87 名の受刑者が新型コロナに感染されたとのことだが、その対応状況についてどうなっているか。

森山福祉保健課長：特定の方が決まったところで暮らしている場所なので、一般的にはクラスターは発生しやすい状況だと思います。発生届は刑務所の診療所から出てまいりますので、保健指導はさせていただきますが、具体的な感染者への対応については、法務省で実施しており、発生届の範囲内でしか把握できておりません。それによると、軽症又は無症状の方が多いため、接触された方に対し広く検査を実施したのではないかと思います。また、感染された方は全員個室に入っているという状況だと聞いています。また、感染された方は全員個室に入っているという状況だと聞いています。また、感染された方は全員個室に入っているという状況だと聞いています。

瀬之間議員：事業者向けの融資・給付関連について、様々な相談を受けていると思うが、コロナ禍において飲食店関係を含め、事業をやめてしまったり、倒産されたりした件数は、どのくらいあるか。

大木地域振興課長：件数については把握していません。申し訳ありません。

瀬之間議員：分かりました。続いて、緊急時情報伝達システムについて、これまでは事前登録者のみへの配信だったということだが、どのように登録できたのか。

繁野総務課長：現在は、自治会町内会の役員の方に事前登録をいただいています。それを今後は、自治会町内会だけではなく、例えば、大雨が降った時に危険な崖付近にお住まいの方などに積極的に働きかけて登録していただき、避難の情報を音声ガイドでお知らせする、といったことを考えています。

瀬之間議員：今後は、そういった事前登録をしていない人でも、電話で情報を聞くことができるということか。

繁野総務課長：これまでは、事前登録した方だけに情報が発信されていましたが、今後はそれに加えて、所定の番号にお電話いただければ、

どなたでも情報を入手できるという運用を取り入れていきたいと考えています。

瀬之間議員：国でもデジタル庁ができ、横浜市でも令和3年度の予算説明で、デジタル化に向けた取組を進めるという中で、自治会町内会のICTの活用支援として、継続して活用していく環境を整えるということだが、既にICTを活用している事例はあるか。

大木地域振興課長：自治会町内会を始めとする地域活動において、一部ではありますが、例えば役員の会議をオンラインでやられているということを知っています。現状はごく少数ですので、事例について12月の区連会で紹介していただき、オンライン会議の研修を実施しました。こういった取組を広めるための支援をしていきたいと考えています。

瀬之間議員：オンライン化は必要なことだと思う。機器の導入とはパソコンのことだと思うが、補助金の額はどのくらいか。

大木地域振興課長：12の団体に10万円ずつで積算しており、パソコンだけではなく、インターネット環境の整備にもお使いいただけるような形で考えています。

瀬之間議員：導入しても使い方が分からない方もいらっしゃると思うので、パソコンを使い慣れない方に教えるといったこともするのか。

大木地域振興課長：そういったことも含め、自治会町内会を対象にコンサルティングも行い、例えば電子掲示板の導入など、ニーズに沿ったご要望に応じていきたいと思えます。

瀬之間議員：引き続きよろしく申し上げます。

安西議員：ICTの町内会での活用について、学校でもICT支援員がいるくらいなので、そばでレクチャーするといったことを根気強くやって、覚えていただくことが必要になると思う。一度きりのレクチャーだけでは難しいと思うが、工夫する予定はあるか。

大木地域振興課長：予算の中ではコンサルティングと補助金の2つですが、継続した支援は必要かと思えますので、有効に活用していただけるように、地区担当を含む区の職員も協力しながら、効果的に支援していけるよう検討したいと思えます。

安西議員：大変だと思うが、自治会町内会の年次総会など、多くの方とつながらなくてはならない現状があるので、できることから課題

を一つ一つクリアし、他の地域にも展開していくということを繰り返して、アフターコロナの時に生かすことを見据えて取り組むべきだと思う。続いて、情報発信の強化の緊急時情報伝達システムについて、具体的には、ある番号に電話をかけると誰でもが情報を聞けるということだと思うが、集中してかかったときに、回線は大丈夫なのか。

繁野総務課長：予算が決まり次第、専門業者と具体的な調整を行うところではありますが、ある程度の数の回線を設けたいと考えています。

安西議員：他の地域でも、例えば区内で火災の情報を確認できるようなものなど、様々な事例がある。区がリアルタイムに情報発信することはとても大切なので、災害時の想定もしながら、始めは限られた回線になるかもしれないが、順次拡大が可能な仕組みなど、将来的なことを考えた仕様となるよう工夫して欲しい。議員団にも共有していただき、正しい情報が入手できる環境をぜひ作って欲しい。続いて、区提案反映制度に関して、昨年度に比べ、区としての大事な課題が網羅的に提案されていると思う。その中で、陰圧車の区庁用車としての配備は、コロナの対応をする上で必要なものを提案されていると思うが、これについて補足等あれば説明して欲しい。

森山福祉保健課長：陰圧車は、外見上は普通の車やタクシーのようなもので、運転者と乗られる方との間に仕切りがあり、乗車される方の側の圧を下げることで、コロナウイルスが運転者側に行かないようにするものです。当初、市で3台しか確保できていなかったため、区民の方にお使いいただける機会が少なかったのですが、8月中旬に3台、9月に14台増え、現在は20台体制で運用しています。そのことにより、区民の方も陰圧車を使ってドライブスルーの検査を受けたり、病院に行ったりということが可能となっています。陰圧車の利点として、運転手が防護服を着用せずにお迎えに行けるため、民間救急車での送迎と比べ、見た目を気にせずに患者さんが乗ることができるということがあり、多くの区民の方が利用できるようになり、助かっています。

安西議員：私の方にも実際に相談があり、悩んだことがある。自宅療養しているが、状況によっては入院してもよいという方で、入院する

ことになった場合に民間救急車が来ることを心配されていたもので、そういったお声がリアルにある中で、陰圧車は港南区が中心となって提案し、他の区と協力しながら形になったと聞いた。今後も現場で必要なものを、積極的に市に提案して行って欲しい。続いて、港南公会堂の整備について、数年前に、整備に合わせたバス停の改善も、区から市に提案したと認識しているが、状況が進む中、元々のバス停の改善の実現について改めて進めていってもらいたいが、ぜひ区長の気持ちを伺いたい。

今富区長：本来は、公会堂の開館に合わせてバス停の改善ができればよかったのですが、今、市全体のコロナ対応ということもあり若干遅れています。しかし、ぜひとも実施してもらえるよう、局へは働きかけて行くとともに、それが叶わないとしても、何らかの形で実現できるよう頑張りたいと思いますので、お待ちいただければと思います。

安西議員：区政推進課長から補足をお願いします。

高岡区政推進課長：区提案の中で、交通局に対してバス停の拡張と上屋の設置を要望しています。これについて、交通局の来年度予算案では、上屋の設置費の計上が見送られました。理由としては、コロナ禍において交通局の経営状況が非常に厳しさを増しつつあり、予算化を見送ったと聞いています。区としては、バスを利用される方の利便性を考えると、バス停の拡張と上屋の整備はセットで行うべきと考えていますので、令和3年度のバス停の拡張は難しいと考えています。しかし、区としてはバス停の混雑緩和は必要なことと考えていますので、動きを止めることなく、一步でも前に進めるために、上屋の設計に必要な地下埋設物の調査を今年度中に行い、その結果を交通局と共有していきたいと思いません。また、引き続き交通局に対し、バス停の拡張と上屋の整備を働きかけていきたいと考えています。

安西議員：ぜひよろしくをお願いします。関連して、日野川の対策について、水防システムやカメラの設置など様々な対策が進んでいるが、併せて、土のうステーションを土木事務所で設置しており、道路局としては、土のうステーションについて予算概要の中でも明記されている。ゲリラ豪雨があった時に地域を回ると、土のうを土木事務所まで取りに行くことが困難な地域が厳然とあることを実

感する。恒久的には下水管の口径を上げるといった対策が必要だが、一義的には土のうで守っていただくことはどうしてもやراざるを得ない対策なので、土のうステーションの仕組みの確立をしたいと思っている。日野川のみならず、広くそういう希望のある地域の方に対して、窓口や、運用の仕方、どういった環境下で使えるかといったことなど、仕組みについて港南土木事務所で考えてもらい、チラシやホームページなどで相談についてしっかりと周知し、形にすることが、今年の台風時期に備えて大切なことだと思う。考えについて、所長か副所長に伺いたい。

井深土木事務所長：現在、18区の中でも土のうステーションを設置している区があるため、そういった事例も参考にしながら、港南土木としても対応を検討していきたいと考えています。日野川の周辺に設置している土のうステーションについて、地域の方に好意的に受け止めていただいておりますが、自分で運んでいただくというのもなかなか大変なことだと思いますので、地域の方からのご意見もいただきながら、考えていきたいと思ひます。また、局とも連携しながら、対応方法について検討していきたいと思ひております。

安西議員：ぜひ、他の区の職員も土のうステーションという仕組みがあることを知ってもらいたい。ゲリラ豪雨で瞬間的に課題が出たところの対処として、市としてそういう仕組みがあることが知られていないので、知ったうえで土木事務所と連携して必要な場所に設置できる仕組みを、港南区として取組を進めてもらいたいと、改めて要望します。

田野井議員：長期にわたりチーム港南として頑張っただき心から敬意と感謝を申し上げたい。昨日、全局にわたる勉強会が終了した。その中で市民局の区づくり推進費予算を見ると、港南区は突出して地域の声を吸い上げ、内容についても18区の中でトップクラスに入る予算の努力が結集されていると評価させていただきたい。

今、コロナ禍にあつて、アフターコロナに向け、ウィズコロナもしっかりとやっていかなければならないと思う。私も20年飲食店をやっていた経験の中で毎月飲食店組合の理事会を地区センターで三密を避けて行っているが、現場の声を聞くと本当に状

況は厳しい。飲食店の規模によっては 20 時の閉店をしっかりと守り、6 万円を国からいただいて、本当に助かっているという話も聞いているが、毎月のように組合員店舗の閉店やら廃業の報告が上がってきており、厳しいことに変わりはない。それでも、飲食店組合は、食の安全・安心の確保のため、食中毒予防キャンペーンなどを行政と協力して行っているけれども、その動員もなかなか大変である。保健所も大変だとは思いますが、飲食店組合加盟店がどんどん少なくなっており、入った以上はメリットがないと、何かの時にお願いをするのが非常に厳しい状況である。私も横浜市食品衛生協会の顧問をさせていただいていますが、飲食店組合への港南区でのフォローアップを考えて欲しいと思うがどうか。

有竹生活衛生課長：港南区飲食店組合や港南区食品衛生協会につきましては、西尾会長をはじめとする役員の方々と、機会をとらえて情報交換させていただきながら、どうしたら新しい組合員が増えるかといった戦略的なものも意見交換をさせていただいております。確かに、組合の入ることのメリット・デメリットなど色々なご意見はありますが、そこは食の安全をより一層向上することにつながるというメリットを感じていただけるよう、進めてまいりたいと思っています。

田野井議員：ひとつよろしくお願ひしたいと思います。次に、HUG 訓練について、今はなかなか各自治会町内会で実施できないかとは思いますが、災害は時間を選ばない。コロナ禍で難しい状況だが、私の自治会では HUG 訓練を実施した。私の地域には、桜岡小、港南中がありますが、真っ暗の中、体育館へ行くこともあるため、交通整理をしておかないといけない。各自治会町内会の担当の皆様には、HUG 訓練の重要性を再確認していただくような指導を、自治会町内会に出向いてお願ひしたいと思う。また、動物との共生を考えるペット同行避難も大事だと思う。次に ICT 関係だが、学校教育もタブレットを活用しており、私も授業を見学させていただいた。ある意味では子どもたちは小さいときから目を酷使している。子どもたちは ICT の活用なくしては生活できない時代になっているため、このことを踏まえ変えなければいけないもの、変えてはいけないもの、守らなければならないものもあるかと思う。コロナ禍で子どもたちの居場所も制限され、子ども

会活動もほとんどできない。消防署から依頼される防火ポスターの制作や、今も上大岡のミオカで180点程度展示している子どもたちの書道展などはやることができた。しかし、子ども達の出番がない、行く場所が非常に少ない状況。そのような状況の中で、学校から陽性者が発生すると一斉メールが配信され、途中で下校するようなこともある。すると保護者からは、うちの子は大丈夫かと問い合わせがある。

先日、野庭住宅・野庭団地の未来を考える会の通信「はれのぼ」の第2号が発行された。横浜の大規模団地であり、長い歴史のある野庭の新しいまちづくりをどのように考えていくか。そのために、何を誘致するのかということも、地域・企業と連携しながらやっていく必要があるだろう。

林市長も、帯状疱疹が完治したということで復帰いただきますが、今年は様々な政治課題もあり、本当にご苦労様です。港南区は、しっかりと区づくり推進への対応をしていただき、敬意を表したいと思います。質問ではありませんが、区長のまとめ的なご挨拶をいただいて私の発言を終わりたいと思います。

今富区長：今、色々ご意見をいただきました。港南区としては、コロナコロナといって後ろ向きだけのことを考えても仕方ありませんので、前例がない中、何ができるのかを考えていきます。先程もお話しがありましたけれど、民生委員も含め色々ご苦労しながら、会えなければ電話、多くの方を集められなければ少し小さいグループで集まるとか、工夫されています。そういう皆様方の活動に対して、いかにご支援できるかを念頭にこれからも活動していきたいと思います。また、コロナの関係ではいろいろ地域の活動も不便かと思いますが、その中で何が問題なのか、こういうことを支援してもらったらいいいのでは、ということがありましたら、地区担当もおりますので、極力対応してまいりたいと思います。ご意見などありましたら我々のほうにもお伝えいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

田野井議員：ありがとうございます。いずれにいたしましても、議員団も含めワンチームで、このような難局は1920年のスペイン風邪以来であり、誰もが経験していないことですから、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

備 考	
-----	--